

罪アリテ、小兒ニ罪ナシ、然ルヲ罪アル親ハ問ズシテ、罪ナキ小兒ノミ屠村ニ下シ、人外トセバ、其  
兒成長ノ上ニテ思ハン處モ不便也、又今ノ如クニテ、屠家非人ノ内ヨリ捨ルモアルベシ、ソレヲ  
イカニ知テバトテ、平民ノ子トシテ撫育スルモアルマジキコト也、故ニ此處置ヲセンニハ、子ヲ  
捨タル上ノ評議ヨリモ、先子ヲステサセヌヤウノ仕方アルベキノミ、ソノ法イカン、蓋シ窮民ニ  
テモ、表長屋ニ住スルホドノ者ハ、子ヲスツルニハ至ルマジ、必定裏借屋ニ住スル者ノコトナル  
ベシ、端々ニテハ、表屋モアル可カ、兼テ嚴令ヲ傳ヘテ、閭閻至賤ノ細民ノ分、出産ノ節ハ、兩隣又ハ  
向側ナドノ内、手近キ者兩人立合見届クルヤウニト、町年寄家主ヨリ堅ク申付置、七夜ノ内ニ其  
親小兒ノ名ヲ書ツケ、兩隣附添家主ヘ届ケ、早々町ノ人別ニ入ベシ、若養子ニ遣ハス約アラバ、其  
旨ヲ兩隣トモニ、右ノ通リトツケ出テ、町ヨリ囉ヒ方ヲ一應ミトマケノ人遣ハシ、其家主ヘトマ  
ケ置ベシ、囉ヒタル町モ、兩隣立合、右ノ通ニシテ速ニ町ノ人別ニ入ベシ、モシ又勝手ニ附、暫ク親  
類ニ預ケタキト云フモノハ、アツケタル時戻リタル時、兩町互ニ相届クベシ、アツカリタル兩隣  
モ右同段ナリ、

〔平安落穂集〕三 捨子之事

延享之頃、今出川通り近衛殿の塀の外面に捨子ありしを、御裏なる姫君の御方聞し、召不便に思  
召、ひろわせて育させ給ひし、其北側冷泉家の屋敷なりしが、此事を爲村卿よみ給ふ、

捨し親の嘸すてかねて捨つらん、捨られし子のあぢきなき聲、となん、又享保の末の頃、かたじ  
けなくも、靈元帝、捨子といふ事、叡聞に達せしかば、

哀なれ夜半に捨子の泣止むは親に添寝の夢や見つらんと遊ばされしぞ有がたき、

〔新撰字鏡〕親族 聲 毛古、又可支、

〔倭名類聚抄〕二 婿 婿 爾雅云、女子之夫爲婿、細反 作聲、和名無古